

平成二十年度 学習状況調査問題

# 小学校第五学年国語

組	番	氏名

## 注 意

- 一 つくえの上には、えんぴつ、消しゴム、定規、コンパス、下じき以外の物を、おかないください。
- 二 表紙の決められたところに、組、番号、氏名を書いてください。
- 三 時間は四十五分間です。
- 四 答えは、かならず、答えのらんを書いてください。答えのらんの下にある( )は先生用ですから、なにも書かないください。
- 五 印刷がはつきりしないときは、手をあげて先生に知らせてください。
- 六 わからない問題はあとまわしにして、ひととおりにやってから、もう一度考えてください。
- 七 時間があまったら、よくみなおしてください。

栃木県教育委員会

一 次の一から七までの問いに答えなさい。

一 次の——線部の漢字の読みがなを、ひらがなで書きなさい。

1 昼食の時間。

①

2 お湯を冷ます。

②

3 国語の成績。

③

4 問題の解決に努める。

④

5 しばらく休息する。

⑤

二 次の——線部のひらがなを、漢字で書きなさい。

1 品物をはいたつする。

⑥

2 かぞくですごす。

⑦

3 人をたすける。

⑧

4 ひつような部品をさがす。

⑨

5 したしい友人。

⑩

三 次の——の中にある四つの言葉は、国語辞典にどの順番で出ていますか。出ている順番で、下の1、2、3、4のらんに書きなさい。(ひらがなでよい。)

こくばん

こたつ

こくご

こたえ

三の答え

← 1

← 2

← 3

4 ←

⑪

(完全正答)

四 「原因」と反対の意味をもつ言葉はどれですか。次の1、2、3、4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

- 1 方法
- 2 結果
- 3 規則
- 4 主張

四の答え

- 1
- 2
- 3
- 4

○  
⑫

五 「旅行で一週間ほど、家をあげた。」の「あげた」を漢字で書く場合、正しいのはどれですか。次の1、2、3の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

- 1 開けた
- 2 明けた
- 3 空けた

五の答え

- 1
- 2
- 3

○  
⑬

六 次の——線を引いた言葉は、どれも敬語です。1、2、3、4の中から、正しい使い方をしているものを一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

- 1 わたしが、理由を申し上げます。
- 2 母が、学校へおいでになります。
- 3 弟は、毎朝パンをめし上がります。
- 4 父は、家にいらつしやいます。

六の答え

- 1
- 2
- 3
- 4

○  
⑭

七 次の文の中で、——線を引いた言葉「かすかに」は、どの言葉をくわしく説明(修飾)していますか。あとの1、2、3、4の中から一つ選んで、その番号を○で囲みなさい。

教室から かすかに 友だちの 話し声が 聞こえる。

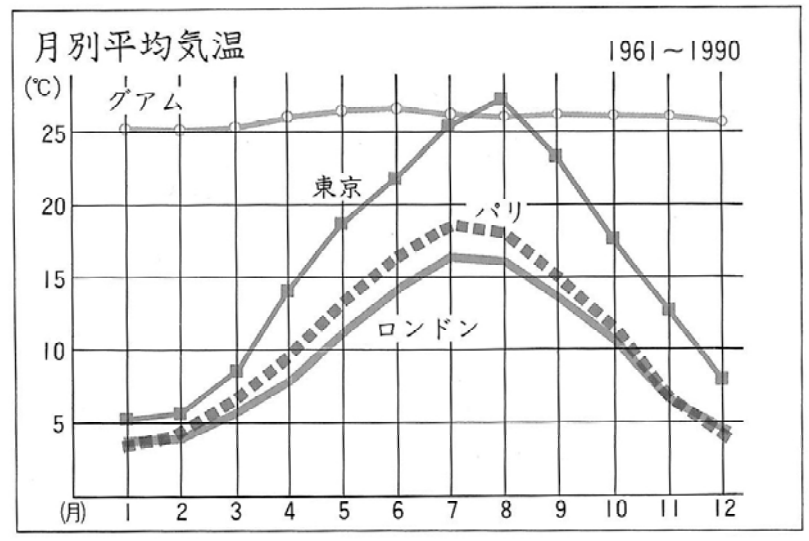
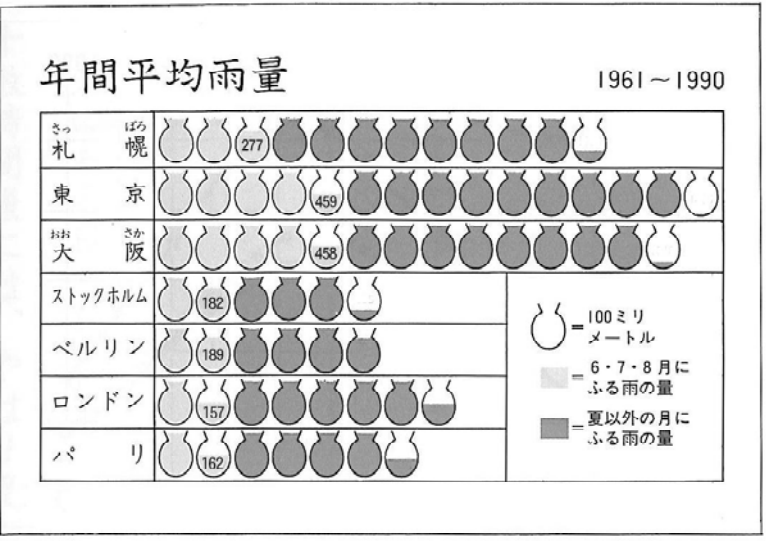
- 1 教室から
- 2 友だちの
- 3 話し声が
- 4 聞こえる

七の答え

- 1
- 2
- 3
- 4

○  
⑮

次の文章を読み、あとの一から五までの問いに答えなさい。



夏のある日、わたしたちが日本のこくさい空港を飛行機で飛びたつと、十数時間後には、やはり夏のヨーロッパに着くことができます。ヨーロッパの空港におり立つと、わたしたちは、**ア**におどろいてしまいます。十数時間前の日本は、あせがふき出るようなむし暑さだったからです。

同じ北半球にあっても、日本とヨーロッパとは、夏の暑さがかなりちがいます。いったい、どのように暑さがちがうのでしょうか。東京とイギリスのロンドンを例にとつて、調べてみましょう。まず、月々の平均気温から比べてみましょう。

上の図は、東京・パリ・ロンドン・グアムの一年の平均気温を表したものです。この図でわかるように、**A**の七月・八月の気温は、**B**の五月や十月の気持ちのよい季節の気温とほぼ同じです。フランスのパリ、ドイツのベルリンなどの真夏の気温も、だいたいこれと同じです。これに対して、**C**の七月・八月の平均気温は、**D**より十度近く高く、むしろ南洋のグアム島の気温に近いのです。

次に、東京とロンドンの、夏の平均雨量を比べてみましょう。東京の**イ**の三か月間の平均雨量は四五九ミリメートルで、ロンドンの一五七ミリメートルの約三倍にもなります。東京とロンドンだけではなく、日本各地とヨーロッパ各地を比べてみても、かなりのちがいがあります。このことは、夏の日本では、ヨーロッパに比べて、空気の中に水蒸気がたくさんふくまれていることを示しています。

この二つの比較から、日本の夏は、確かにむし暑いということがいえます。それに対して、ヨーロッパの夏は、気温はあまり高くなく、空気もかわいていて、大変さわやかだといえましょう。

（教育出版「国語5上」（平成十二年度 小学校用）  
倉嶋 厚「日本の夏、ヨーロッパの夏」より）



### 三

次の文章を読み、あとの一から五までの問いに答えなさい。

動物園の飼育係をしている亀山<sup>かみやま</sup>さんは、ときどき動物園にやってくる少年のことが、なんとなく気にかかっていた。そんなある日のできごとである。

亀山さんはチンパンジーにえさをあたえてから、ぐるっと園をまわっていた。ペンギンのいる池のほうがさわがしかった。池のまわりに、たくさんの幼稚園児<sup>ようちえんこ</sup>がいた。幼稚園の先生がペンギンを泳がせようとしている。しっしつと声をかけたり、持っている日がさをさくの中につっこんで、ペンギンをおいたてようとしていた。子どもたちはそれでさわいでいるのだった。

亀山さんはしたうちをした。

動物のくらしに心をくばらないで、人間のつごうだけでものごとを考える先生に亀山さんは腹<sup>はら</sup>をたてた。おもわず身をのりだして、注意<sup>ちゅうい</sup>をしようとした。

そのときだ。あの少年の声がした。

「ペンギンは泳がないよ。」

どうして、と幼稚園の先生はいった。

「ペンギンが水の中にはいるのは、えさをとるときだけだよ。」

幼稚園の先生たちは顔を見あわせた。少年のことばをうたがっているようだ。

「ペンギンにもつごうがあるよ。」

少年はいった。

亀山さんは心<sup>こころ</sup>の中で手をたたきたいたいような気持ちだった。亀山さんのいいたいことを、この少年はみんないって<sup>①</sup>くれている。

亀山さんはそのとき、この少年と友だちになれそうな気がふとしたんだ。

亀山さんがすがたを見せると、幼稚園の先生はペンギンを泳がせてほしいとたのんだ。もちろん、亀山さんはことわるつもりだった。ア、じつと亀山さんのほうを見ている子どもたち<sup>②</sup>のことを思うと、さすがにことわりかねた。亀山さんはペンギンのえさであるアジというさかなをとってきた。そして、子どもたち<sup>③</sup>にいった。

「この子がいったように、ペンギンはえさをとるときにしか水にはいりません。みなさんだって給食の時間があるでしょう。ペンギンはいまお休み中なんです。それをむりに起こして泳がせるのだから、しっかりと見ていてください。」

亀山さんはえさを水の中にほうりこんだ。が、ペンギンは一びきも水にはいらなかったんだ。

亀山さんはしかたなく、手を大きくひろげて、ペンギンを水辺<sup>みずべ</sup>においよせ、ついに水の中へ入れた。子どもたちは拍手<sup>はくしゅ</sup>をした。けれど、なんとということだ。ペンギンたちは水の中にはいっても、ただ、浮<sup>う</sup>かんでいるだけで、えさのほうにも行かないし、もちろん泳ぎだもしなかった。

亀山さんがおうのをやめると、ペンギンたちはさつさと陸<sup>りく</sup>へ上がってしまったんだ。

「ペンギンがイよ。」

そのとき、あの少年がいったんだ。

「そうだね。こんなむりなことをしてはペンギンがかわいそうだね。みんな、陸に上がっているペンギンをよく観察してください。はねをひろげてぶるぶると水をはじいてかわかしたあと、くちばしをおしりのほうにむけて、おしりのはねをそうじしているのは、しっぽのつけねに油の出るところがあるからです。ペンギンはいつ、どんな敵<sup>てき</sup>におそわれるかわからないので、いつでも水にはいれるよう、ああして、からだに油をぬっているんです。からだを休めているのも、みんな自分のいのちをまもるためなんだ。だから、むりに泳がせるのはたいへんにいけないことなんだけど、みんな、わかってくれるかな。」

亀山さんがそういうと、子どもたちはなにかわるいことをしたように、小さな声で、はいといった。

(灰谷健次郎「ひとりぼっちの動物園」より)



